

宮崎県における高病原性鳥インフルエンザ発生
(家きん国内 33 例目) に伴う野鳥緊急調査の結果について

<宮崎県同時発表>

令和3年1月5日 (火)

宮崎県小林市の養鶏場における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認 (家きん国内 33 例目) を受けて、宮崎県が 12 月 30 日に野鳥緊急調査を実施したところ、野鳥の大量死等の異常は確認されませんでした。

1. 調査日

令和2年12月30日 (水)

2. 調査結果

宮崎県小林市の養鶏場における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認 (家きん国内33例目) を受けて指定した野鳥監視重点区域内にある渡り鳥の飛来地等13か所において、宮崎県が野鳥の生息状況調査、死亡野鳥調査等を実施した結果、野鳥の大量死等の異常は確認されませんでした。

(参考) 野鳥緊急調査で確認された鳥類 (宮崎県小林市及び周辺市)

| 検査優先種※ | 種数 | 種類 |
|---------|-----|--|
| 検査優先種 1 | 4種 | オシドリ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、カイツブリ |
| 検査優先種 2 | 5種 | マガモ、オナガガモ、トモエガモ、ホシハジロ、オオバン |
| 検査優先種 3 | 9種 | カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、カワウ、アオサギ、ミサゴ、トビ、チョウゲンボウ |
| 合計 | 18種 | |

※検査優先種：「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」において、感染して死亡しやすい種を中心に設定しているものです (別紙参照)。

3. 今後の対応

引き続き、野鳥監視重点区域において、野鳥の監視を継続します。

【参考情報】

環境省は、ホームページで高病原性鳥インフルエンザに関する様々な情報を提供しています。

(http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/index.html)

環境省自然環境局野生生物課
鳥獣保護管理室
直通 03-5521-8285
代表 03-3581-3351
室長 川越 久史 (内線 6470)
企画官 立田 理一郎 (内線 6465)
係長 小西 美代 (内線 6477)
係長 中山 裕貴 (内線 6474)

検査優先種

(9 目 11 科)

| 検査優先種 1 (17 種) | | |
|---|--|---|
| カモ目カモ科 ヒシクイ マガン シジュウカラガン コクチョウ* コブハクチョウ* コハクチョウ オオハクチョウ オシドリ ヒドリガモ キンクロハジロ | カイツブリ目カイツブリ科 カイツブリ カンムリカイツブリ ツル目ツル科 マナヅル ナベヅル チドリ目カモメ科 ユリカモメ タカ目タカ科 オオタカ ハヤブサ目ハヤブサ科 ハヤブサ | 主に早期発見を目的とする。 高病原性鳥インフルエンザウイルス (H5 亜型) に感受性が高く、死亡野鳥等調査で検出しやすいと考えられる種。 死亡野鳥等調査で、平成 22 年度及び 28 年度の発生時を合わせた感染確認率が 5%以上であった種。 |
| 重度の神経症状**が観察された水鳥類 | | |
| 検査優先種 2 (11 種) | | |
| カモ目カモ科 マガモ オナガガモ トモエガモ ホシハジロ スズガモ ツル目クイナ科 オオバン | タカ目タカ科 オジロワシ オオワシ ノスリ クマタカ フクロウ目フクロウ科 フクロウ | さらに発見の可能性を高めることを目的とする。 過去に日本と韓国等において死亡野鳥で感染確認のある種を含める。 |
| 検査優先種 3 | | |
| カモ目カモ科 カルガモ、コガモ等 (検査優先種 1、2 以外全種) カイツブリ目カイツブリ科 ハジロカイツブリ等 (検査優先種 1、2 以外全種) カツオドリ目ウ科 カワウ ペリカン目サギ科 アオサギ ツル目ツル科 タンチョウ等 (検査優先種 1、2 以外全種) チドリ目カモメ科 ウミネコ、セグロカモメ等 (検査優先種 1、2 以外全種) | タカ目ミサゴ科 ミサゴ タカ目タカ科 トビ等 (検査優先種 1、2 以外全種) フクロウ目フクロウ科 コミミズク等 (検査優先種 1、2 以外全種) ハヤブサ目ハヤブサ科 チョウゲンボウ等 (検査優先種 1、2 以外全種) | 感染の広がりを把握することを目的とする。 水辺で生息する鳥類としてカワウやアオサギ、検査優先種 1 あるいは 2 に含まれないカモ科、カイツブリ科、ツル科、カモメ科の種を、また鳥類を捕食する種として検査優先種 1 あるいは 2 に含まれないタカ目、フクロウ目、ハヤブサ目の種を対象とした。 |
| その他の種 | | |
| 上記以外の鳥種すべて。 猛禽類以外の陸鳥類については、カラス類以外は国内では感染例が知られておらず、海外でも感染例は多くないことから、その他の種とする。 野鳥監視重点区域においては、3 羽以上の死亡が見られた場合の他、感染確認鳥類の近くで死亡していた等、感染が疑われる状況があった場合には 1 羽でも検査対象とする。 | | |

* 外来種。

** 重度の神経症状とは、首を傾けてふらついたり、首をのけぞらせて立っていられなくなるような状態で、正常に飛翔したり、採食したりすることはできないもの。

※検査優先種については今後の発生状況、知見の集積等により見直し、毎年シーズンの始めに環境省から通知する。シーズン中も状況に応じて追加、通知する。都道府県等は、この検査優先種を基本として地域の事情に合わせ独自の選定により適切な対応をすることを妨げない。

※検査優先種については、必ずしも感受性が高い種のみを選定しているわけではなく、発見しやすさや、海外や近縁種での感染例による予防的な選定等も含む。

※検査優先種 1 に該当しない希少種について、その希少性や生息状況等によっては、表 2 に示す羽数でなくても把握をすべき場合も想定されることから、必要に応じて、地方環境事務所に相談する（地方環境事務所は必要に応じて本省野生生物課に相談して対応する）。